『少子高齢社会のまちづくりーコラボレーションによる新しいまちづくりの形』

司会・コーディネーター：吉良　伸一（大分県立芸術文化短期大学）

【趣旨】

竹田市は平成 22 年国勢調査で人口 24,423 人、平成 17 年から 8.0%減、65 歳以上人口率 40.8%・15 歳未満人口率 9.4%、となっています。年齢別人口率は 50 年 後の日本の状況とほぼおなじです。かつて、まちづくりは住民の自主性や自立性の上に構想され内発的なあり方が強調されていました。その計画は、行政区の枠内で完結していました。しかし、現在のまちづくりは、1）かならずしも産業振興や人口増加を目的としない、2）アーチストや団体・大学等の外部からの支援 を受け、多様なアクターによって企画運営、3）一過性のイベントに終わらず外部との交流（時に都市からの移住、着地型観光など）をめざす、といわれます。 他方で、こうしたあり方は、目的の明確性・手段の的確さ・成果の明快さを曖昧にしているともいえます。合併後の市町村では様々な住民組織が立ち上がり、活 動をはじめたことが評価されていますが、合併特例がなくなり厳しい財政状況が目前です。少子高齢過疎化の進む地方では、人口増など明確な目標を打ち出せません。また、外部アクターの力がどうしても必要となっています。少子高齢化過疎化のなかで、これからのまちづくりはなにを目的に、どのような方法で、どの ように効果をどうみるのか。本シンポジウムでは実際の取り組みを紹介しつつ、協働的な（collaborative）なまちづくりの可能性を追究したいとおもいます。

1.企画趣旨説明：吉良伸一（大分県立芸術文化短期大学） 5 分
2.「まちづくりの変遷と課題」：三浦典子（日本社会分析学会会長） 15 分
3.「竹田市の現状とまちづくり」：吉良伸一　15 分
4.「食育によるむらおこし」：佐藤知博（ハッピーアートカンパニー代表）15 分
5.「中心市街地のこれから」：河野通友（竹田商工会議所専務理事） 15 分

コメント（各 10 分）室井研二（名古屋大学），奥田憲昭（日本文理大学）
報告者応答・フロア討論（35 分）